

仙台白百合学園中学・高等学校

白百合が開発する『グローバル・サーバント・リーダー』プログラム

【構想の概要】

従来の総合的な学習の時間をベースに修道会の3つの活動を加え、テーマを【医療福祉・教育・企業・食・環境】の5領域とし、国内外で課題解決型の探究活動を実践。合わせて奉仕の精神で生きる女性と繋がりながら、人を支え、人を活かし、人を繋げるグローバル・サーバント・リーダー（GSL）を育成。更に、生徒自らGSL教材を開発。多言語化に挑戦し、白百合の目指すリーダーが持つ精神と行動を分析・提示・継承。共生社会の実現に向けて、課題解決策の実践を、培ってきた英語力、プレゼンテーション力を駆使して行いつつ、磨かれた思考力・判断力・表現力等でキャリアの形成を確立する。

仙台白百合学園中学・高等学校
白百合が開発する **グローバル・サーバント・リーダー** 育成プログラム
～すべての人が大切にされる世界を築くために～

仙台白百合学園高等学校は「人を支え、人を活かし、人をつなげる」グローバル・サーバント・リーダー（Global Servant Leader）を育てます。GSLとは、社会から忘れられがちな人々に共感し、他者に尽くす奉仕の心を持って、問題の解決のために行動できる人です。1893年の創立以来培ってきた宗教・福祉教育を土台に【環境・食・医療福祉・教育・企業】について、国内と国外（台湾）で探究活動を実践し、すべての人が大切にされる世界の構築を実現するGSLを育成します。

本校独自のリーダー学(GSLプロジェクト)

目標	奉仕の精神	主体的な行動	GSLが持つ4つの資質
高校3年 「発信から行動へ」 GSLの確立 アクションプラン 実践・報告・発信	《奉仕の精神を持って行動する》 ・社会から忘れられがちな人々に共感する ・他者に尽くす奉仕の心を持って行動し、社会とダイレクトにつながるGSLの確立	《課題解決型探究活動の実践（国内、そして世界へ）》 ・共生社会の実現に向けた、課題解決策の実践 ・社会とつながるリーダーの確立 ・ウェブによるアクションプランの発信 ・各種大会・コンテスト等への出場 ・台湾での成果発表や東北女性フォーラムの開催 ・論理的思考力と英語力、プレゼンテーション力の駆使	◆【意図・知識・視点】 Global perspective 多様性・多文化社会の現状把握、共生社会建設のためのグローバルな視野 ◆【技能・スキル】 Flexibility and adaptability 異なる言語、文化、価値観を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協働する力
高校2年 「探究から発信へ」 GSLの自立 台湾 フィールドワーク	《奉仕の精神に触れる》 ・国境を越えてリーダー学の神髄に触れる ・奉仕の精神を持って生きる女性に出会う	《課題解決型探究活動に挑戦(国外)》 問題解決に向けて、アジアや世界のひと々と連携するサーバント・リーダーとしての姿勢を台湾の人々から学ぶ	◆【態度・姿勢・意欲】 Commitment to society 地球市民として、問題解決のために地域から社会に働きかける行動力
高校1年 「気づきから探究へ」 GSLの目覚め 国内 フィールドワーク	《奉仕の精神を学ぶ》 ・本校独自のリーダー学を学ぶ(人を支え、人を活かし、人をつなげるリーダーシップ) ・奉仕の精神を持って生きる女性について知る	《課題解決型探究活動を展開(国内)》 5つの研究領域:「環境」「食」「医療福祉」「教育」「企業」 《アジア史学習》 アジアの連携のために戦争と平和の問題を共有する	◆【精神・価値観・意思・行動】 Servant Leadership 奉仕の精神を持って生きる人々に倣い、自己を他者のために生かそうとする力
中学校 ベニシキ・グローバル 「自分と世界のつながりに気づく」	3年生「生かす喜び」 2年生「生きる喜び」 1年生「生かされている喜び」	3年生「世界の諸問題について考える」 ～UNICEF ワークショップ・NGO 支援～ 2年生「身近な生活と世界のつながりを考える」 ～世界の食糧事情～ 1年生「世界に目を向ける」 ～各国事情～	◆【意図・知識・視点】 Global perspective 多様性・多文化社会の現状把握、共生社会建設のためのグローバルな視野 ◆【技能・スキル】 Flexibility and adaptability 異なる言語、文化、価値観を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協働する力 ◆【態度・姿勢・意欲】 Commitment to society 地球市民として、問題解決のために地域から社会に働きかける行動力 ◆【精神・価値観・意思・行動】 Servant Leadership 奉仕の精神を持って生きる人々に倣い、自己を他者のために生かそうとする力

学年	科目	単元	学習内容	到達目標	評価方法
1年	英語	1	自己紹介	自己紹介の表現を学ぶ	自己紹介の表現を用いて自己紹介を行う
		2	家族について	家族に関する表現を学ぶ	家族に関する表現を用いて家族について説明する
		3	学校について	学校に関する表現を学ぶ	学校に関する表現を用いて学校について説明する
		4	趣味について	趣味に関する表現を学ぶ	趣味に関する表現を用いて趣味について説明する
		5	将来について	将来に関する表現を学ぶ	将来に関する表現を用いて将来について説明する
		6	健康について	健康に関する表現を学ぶ	健康に関する表現を用いて健康について説明する
		7	環境について	環境に関する表現を学ぶ	環境に関する表現を用いて環境について説明する
		8	文化について	文化に関する表現を学ぶ	文化に関する表現を用いて文化について説明する
		9	歴史について	歴史に関する表現を学ぶ	歴史に関する表現を用いて歴史について説明する
		10	地理について	地理に関する表現を学ぶ	地理に関する表現を用いて地理について説明する
		11	科学について	科学に関する表現を学ぶ	科学に関する表現を用いて科学について説明する
		12	芸術について	芸術に関する表現を学ぶ	芸術に関する表現を用いて芸術について説明する
2年	英語	1	海外旅行について	海外旅行に関する表現を学ぶ	海外旅行に関する表現を用いて海外旅行について説明する
		2	ボランティアについて	ボランティアに関する表現を学ぶ	ボランティアに関する表現を用いてボランティアについて説明する
		3	国際協力について	国際協力に関する表現を学ぶ	国際協力に関する表現を用いて国際協力について説明する
		4	異文化理解について	異文化理解に関する表現を学ぶ	異文化理解に関する表現を用いて異文化理解について説明する
		5	多文化共生について	多文化共生に関する表現を学ぶ	多文化共生に関する表現を用いて多文化共生について説明する
		6	グローバル化について	グローバル化に関する表現を学ぶ	グローバル化に関する表現を用いてグローバル化について説明する
		7	デジタル化について	デジタル化に関する表現を学ぶ	デジタル化に関する表現を用いてデジタル化について説明する
		8	環境問題について	環境問題に関する表現を学ぶ	環境問題に関する表現を用いて環境問題について説明する
		9	社会問題について	社会問題に関する表現を学ぶ	社会問題に関する表現を用いて社会問題について説明する
		10	経済問題について	経済問題に関する表現を学ぶ	経済問題に関する表現を用いて経済問題について説明する
		11	政治問題について	政治問題に関する表現を学ぶ	政治問題に関する表現を用いて政治問題について説明する
		12	国際法について	国際法に関する表現を学ぶ	国際法に関する表現を用いて国際法について説明する
3年	英語	1	グローバルリーダーについて	グローバルリーダーに関する表現を学ぶ	グローバルリーダーに関する表現を用いてグローバルリーダーについて説明する
		2	国際社会について	国際社会に関する表現を学ぶ	国際社会に関する表現を用いて国際社会について説明する
		3	国際協力について	国際協力に関する表現を学ぶ	国際協力に関する表現を用いて国際協力について説明する
		4	異文化理解について	異文化理解に関する表現を学ぶ	異文化理解に関する表現を用いて異文化理解について説明する
		5	多文化共生について	多文化共生に関する表現を学ぶ	多文化共生に関する表現を用いて多文化共生について説明する
		6	グローバル化について	グローバル化に関する表現を学ぶ	グローバル化に関する表現を用いてグローバル化について説明する
		7	デジタル化について	デジタル化に関する表現を学ぶ	デジタル化に関する表現を用いてデジタル化について説明する
		8	環境問題について	環境問題に関する表現を学ぶ	環境問題に関する表現を用いて環境問題について説明する
		9	社会問題について	社会問題に関する表現を学ぶ	社会問題に関する表現を用いて社会問題について説明する
		10	経済問題について	経済問題に関する表現を学ぶ	経済問題に関する表現を用いて経済問題について説明する
		11	政治問題について	政治問題に関する表現を学ぶ	政治問題に関する表現を用いて政治問題について説明する
		12	国際法について	国際法に関する表現を学ぶ	国際法に関する表現を用いて国際法について説明する

◆SGH プログラム対象者

	1年目	2年目	3年目	4年目
	2015(H27)	2015(H28)	2015(H29)	2015(H30)
LS	28	56	81	81
LI	0	0	0	18
全体	465	456	414	365
%	6	12.3	19.6	27.1

学びのエンジン強化と必修海外研修の導入で大きくブラッシュアップを狙ったLS(特進)コースで、SGH プログラムの開発を行い、キャリアの形成と語学のスキルアップを検証し、構想通り4年目にLI(総合進学)コースへ内部波及させた。LSにおけるSGHプログラムの教育効果は高く、細やかな広報も功を奏し、4年目のLIにおける受講者18名はLI母集団の約3分の1を占めている。

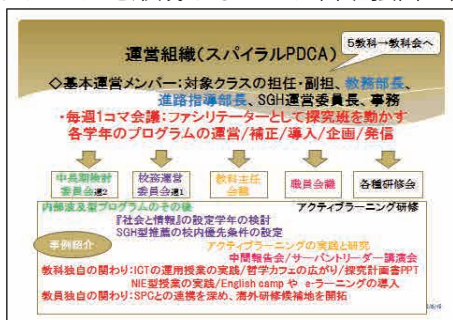
探究課外の設定と教科・科目の連携

本校では総合的な学習の時間と HR・行事を連動させて、SGH プログラムを実施。1年目の取組から問題点を洗い出し、翌年のカリキュラムでは『社会と情報』を3年次から1年次へ移動させた。その後、日課時間の変更に伴い4年目には必修課外に『探究』を設定。毎週の実施により、計画性を損なうことなく、更に HR との連動により幅広い運用に繋がった。また各教科アクティブラーニング型授業の実践を教務部主体に全教科で励行。探究活動との関係性では以下の教科の取組が特徴的。

- ・**家庭基礎**では1年次に『命を育む』をテーマにポスターセッションを実施。グループワークで多角的な視点を形成。
- ・**世界史 A**では1年次に『台湾と日本』についての特別授業を実施。台湾研修のベースを構築。
- ・**社会と情報**では1年次に『PPTの活用』『ポスター作成スキルの習得』を実習。活動内容の効果的な提示を学ぶ。
- ・**数学 I**ではデータの分析の中で『データの活用と有用性の提示の仕方』を実習。論理の展開に関する根拠としてのデータ・統計の扱い方を学ぶ。
- ・**コミュニケーション英語 I ⅡⅢ**では3年間を通じ、英語4技能の実力を養成。検定試験及び英語発表や探究成果における英語の運用についても対応。
- ・**宗教**では一貫したキリスト教哲学の中で、社会的弱者に対する眼差しと、サーバント（奉仕者）としての役割の必要性、更に修道女の活動を通じた学びから、人を支え、人を活かし、人をつなぐリーダーとしての資質を養成する。

プログラム運営上の組織図

5領域（企業・食・医療福祉・教育・環境）からテーマを決定し、ファシリテーター役の教員の基にグループを形成しながら、各班独自の計画でそれぞれが活動するスタイルのプログラムを運営する上では、毎週の運営会議は必須。

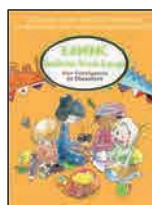


3年間の探究の様子（例：2702班）

『震災時における支援体制』をテーマに、1年次の6月に探究計画書を完成させ、下調べを行いながらタブレットを活用して有識者へのコンタクトを取り始める。8月、宮城大学看護学部の吉田教授に災害時看護について、また仙台国際センターでは東日本大震災時の各種データを調査。被災地域の現状と課題を分析しつつ未解決な問題を探り、脆弱な災害時の連絡体制と弱者への視点を重ね、仙台防災枠組みへの定期的な参加を通して1月に東北大学災害科学国際研究所所長の今村文彦教授の基を訪問。これまでの調査探究から、立ち遅れていた外国人への支援体制の一つとして**減災パンフレットの作成**に挑む。3月、台湾研修では台中の921地震教育園區を訪問し防災・減災のシステムや連携、台湾版災害時パンフレットを学ぶ。更に研修先の東海大学や暁明女子校で探究セッションとアンケート調査を実施。**2年次**の4月



から探究を論文にまとめつつ、不足しているデータの分析を進め、10月には外国人避難訓練に参加。災害時の意識・行動に関する調査を実施し、外国人への優しい日本語講座でパンフレットの言葉使いを学び、アドバイザーの最終監修を経て、11月英語版減災パンフレットを完成。これまでの活動が評価され12月FM仙台的防災番組で活動を報告。3月、仙台防災未来フォーラムで発表。第一回SGH甲子園本選出場。更に仙台ニューズレター『えーる』の表紙を飾るその後、パンフレットの使い心地調査を反映させ改良を施し、**3年次**の8月にはホテルや領事館に配付。NHKの取材を受け、9月に活動が放送される。11月、毎日新聞全国版に掲載。内閣府と仙台市の要請によりぼうさいこくたいに参加。吉野復興大臣に減災パンフレットを手渡す。2月、中国語版を完成させ、3月には学生防災サミットにて仙台市長らと共に会議・発表を行った。現在、後輩たちがこの活動を引き継いでいる。



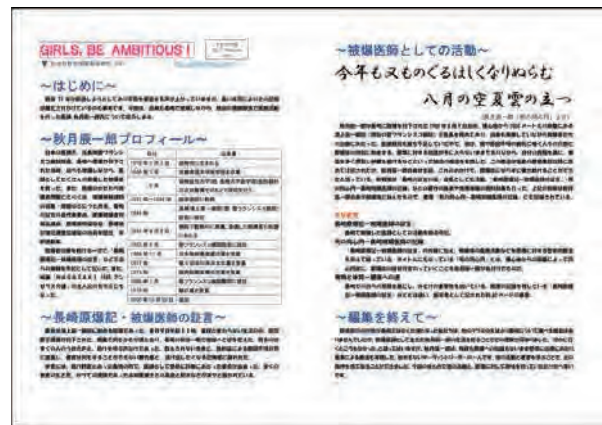
GSL プロジェクト

① **GSL リーダーとの出会い**：国内外でリーダーとの出会いの場を企画・運営・実施。リーダーの精神や思考、行動力を直に学び、物事の本質を見極め新たな視点を形成し、自らの生き方に反映させる。過去3年間のGSLリーダーとの出会いで講演された方は以下である。

氏名	所属等
内田伸子	元お茶の水女子大学副学長・現同大学教授
スンダリミカ	ネパール大衆歌謡歌手・ネパール日本語学校校長
IPP常子	オーストラリア政府公認通訳・ガイド
ハービー・ピースリー	札幌米国税領事務所 広報文化交流担当領事
新妻香織	NPO法人フー太郎の森基金代表
羅芳華(Juanelva Rose)	台湾私立東海大学音楽部教授
片倉佳史	台湾在住作家『旅の指さし会話帳・台湾』著者
河野美奈子	外務省 大臣官房文化交流・海外広報課 課長補佐
伊藤淳	カトリック清瀬教会主任司祭
加藤美紀	仙台北百合女子大学教授
竹内修一	上智大学神学部教授・イエズス会司祭
シャルマ・ヴィン	インド旅行・ビジネスメディアサービス会社社長
白木朋子	国際協力NGO ACE事務局長
Sharad Rai	ネパールYoume school創業者

② **GSL10 (生徒による教材開発)**：本校が選定したGSL (年間10名) を広く一般の人々へ伝える報告書の作成活動は、現在30名を終了。1年次は日本語版、2年次は英語版を作成し、3年次はブラッシュアップを行ってから広く内外に提示する。

◆H27 GSL10 プロジェクト
・シャルトル聖パウロ修道女会『女性外科医Sr.エヴァ(フィリピン)』
・大蔵建設ダム設計技師『八田與一(台湾)』
・シャルトル聖パウロ修道女会『シスター・末吉(カメルーン)』
・世界のスチール王で義守大学総長『林義守(台湾)』
・同世代の人権活動家『マラー・ユスフザイ(パキスタン)』
・アウシュビッツ収容所の日本人ガイド『中谷剛(ポーランド)』
・アンジェラスの鐘の主人公で医師『秋月辰一郎(日本)』
・現ローマ教皇『フランシスコ(バチカン)』
・モッポ(3000人の孤児の母)『田中千鶴子(韓国)』
・元国連高等難民弁務官『緒方貞子(日本)』
◆H28 GSL10 プロジェクト
・NPO法人フー太郎の森代表『新妻香織(福島)』
・助産師『菊池陽(東地チモール)』
・外交官『杉原千蔵』
・大統領『ホセ・ムヒカ(ウルグアイ)』
・ベシャワール会会長・医師『中村哲(アフガニスタン)』
・NPO法人地球のステージ・医師『桑山紀彦(日本)』
・スラム街の宣教と教育『市橋隆雄・サラ夫妻(ケニア)』
・大学教授・グラミン銀行創設者『ムハムマド・ユヌス(バングラデッシュ)』
・蟻の街のマリア『北原怜子(日本)』
・大同生命・日本女子大学創設者『広岡浅子(日本)』
◆H29 GSL10 プロジェクト
・教育者『マリア・モンテッソーリ(イタリア)』
・南アフリカ政治家『ネルソン・マンデラ』
・医師『日野原重明』
・日本紛争予防センター『瀬谷ルミ子』
・料理研究家『辰巳芳子』
・シャルトル聖パウロ修道女会創立者『ルイ・ショーベ神父』
・日本のプラネタリウム開発者『大平貴之』
・ビタミンCの研究でノベル賞『ライナス・ポーリング博士』
・児童労働を撲滅NPO法人ACE事務局長『白木朋子(日本)』
・女性初ノーベル平和賞ヘルタの足跡を伝える『IPP常子(オーストラリア)』



(日本語版：第7号より)

高大連携

本校の探究活動では、探究班の要請や活動のつながりから班毎に有識者と連携するスタイルを取っている。日程を決めて全体が一堂にそろう有識者から探究のアドバイスを頂くような設定はしていない。そのため、班毎にアドバイスを受けに出向くのであるが、この様なスタイルで社会とダイレクトに関わり、知見と常識を養い、次のステップへと移行する生徒の様子には、

- ・精神的にポジティブになり、学習に対しても意欲が増す
- ・時間の活用に工夫が見られ、集中力が増す
- ・対外的な関係性の中で、常識やマナーがアップするなど、顕著な変化が日々の生活や感想等に現れている。

◆主な連携先・アドバイザー等 (順不同)

東北大学 / 宮城大学 / お茶の水女子大学 / 東洋英和女学院大学 / 仙台北百合女子大学 / JICA 東北 / NPO 法人日本・ネパール文化交流クラブ / (株)ダッシュ / 一般財団法人日本国際飢餓対策機構 / (株)オルター・トレード・ジャパン政策室 / 台湾私立大同大学 / 台湾私立東海大学 / 台湾久順茶業公司 / 台湾中央研究院近代史研究所 / 社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会ホープすずかけ事業所 / コープフードバンク / 宮城県国際化協会 / 高瀬元気会

◆ディスカッションフォーラムの開催

東北大学共修ゼミの学生リーダーによるナビゲートを受けながら、世界共通の課題に対し、最新のニュースやデータを得つつ対話を通して互いの意見を学び合い、問題を明確にし、具体的な解決策や自身の意見形成を目指した。今年度のテーマは、**難民問題 / 安楽死 / 死刑制度 / 夫婦別姓 / 子どもの貧困 / 人工妊娠中絶**であった。

評価方法と評価に伴う開発物について

◆総合学習の単位認定における判断材料：以下の項目で各班の担当者がチェックし会議の中で審議する。

1年前期	個人調査まとめ/探究計画書/班への貢献度/発表/感想
1年後期	発表原稿(個人)/PPT作成シート/プレゼンテーション/感想
2年前期	台湾研修個人レポート/ポスター作成/班別活動状況/感想
2年後期	発表原稿(個人)/PPT作成シート/プレゼンテーション/感想
3年全期	GSL10(英語版・日本語版)/解決策の提示活動/感想

◆GSLが備える4つの資質の到達度評価：年間2回(3年次は1回)自己アセスメントを実施。28項目について5段階の評価を行い分析。結果は以下の通りとなった。

カテゴリー	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年全期
1 グローバルな世界を理解するための知識と視点	35.0%	56.2%	68.5%	66.0%	78.3%
2 問題を解決するためのスキル	28.7%	50.9%	62.8%	62.1%	68.6%
3 地球の一員としての行動への意欲	19.0%	38.8%	51.7%	58.6%	64.6%
4 サークンターとしての自覚と行動	37.9%	63.8%	74.1%	71.1%	82.8%

(5段階評価の4以上の割合)

探究活動を本気で行うと、実は自分自身の不十分さに気付くことになる。その意味も含めて本校が開発したアセスメント28項目は、正確であったと判断された。

◆プレゼンテーション評価表：探究成果の報告におけるプレゼンテーションに対し、『プレゼンテーションとは何か』を国内外の有識者からワークショップの形式で学び、実施における評価表も開発。これにより、自己の意見を他者に伝える際、必要とされるスキルが身に付き、発表の場数が増えるに従って、評価のステップアップも行われた。

	テーマ	講師
日本	プレゼンテーションの極意	淵ノ上英樹APU教授
台湾	プレゼンテーションスキルを学ぶ	Jung-Han Chen, Ph.D.

◆GPS - Academicの様子：課題発見・解決に必要な3つの力(批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力)を客観的に測定。自己評価の振り返りを通して主体的に深く学び続ける能力を育成する。(3年生8月の結果)

総合評価(客観)			
	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力
SAゾーン	35%	76%	71%
Bゾーン	53%	24%	24%
CDゾーン	12%	0%	6%

自己評価(主観)			
	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力
5・4ゾーン	47%	89%	47%
3ゾーン	47%	12%	47%
2・1ゾーン	6%	0%	6%

*難関大学に合格した生徒はSゾーンであった。

英語力の養成と結果等

『留学しなくても英語を自在に使い、意思を持って話す生徒を育成する』をコンセプトに一貫して4技能の養成に取り組みさせた3年間の主な結果は以下である。

- ・第69回宮城県英語弁論大会第1位、東北大会出場
- ・第70回宮城県英語弁論大会第2位
- ・実用英語技能検定1級1名、準1級3名
- ・実用英語技能検定2級以上・・・82.8%

◆SGHから波及した班・個人の主な取組結果

- ・ネパール大震災チャリティーコンサート企画・運営・実施
- ・企業とのコラボ商品(紅茶・中国茶)開発・販売
- ・介護職地位向上イメージアップビデオ・教材作成
- ・(株) Good Try Japan キャリアプログラム東北代表
- ・東北大学科学者の卵研究基礎コース最優秀賞
- ・東北大学科学者の卵研究重点コース最優秀賞
- ・Beyond Tomorrow ジャパン未来リーダーズサミット優勝

発表の場の設定

『東北地区 SGH 課題研究発表フォーラム in 杜の都』

主催：仙台白百合女子大学 共催：東北大学・宮城大学

後援：青森/岩手/秋田/山形/福島/宮城の各県教育委員会、仙台教育委員会

目的：東北地区のSGH校とアソシエイト校が取り組んでいる課題研究等を発表し、大学教員のアドバイスを受けながら、研究の深化・意欲・スキル等をアップさせつつ、生徒間の交流を深める。

- ▶本校はホスト校として大学と各高校を繋げる役割
- ▶仙台二華高の協力で模擬国連(2日目交流会)実施

◆参加校9校 (チーム・個人 どちらでも可能)			
◆発表形態：口頭発表(日本語/英語)15分質疑応答&講評5分~10分			
ポスター発表 10分質疑応答5分(2回)			
学校名(採択年度)	プレゼンテーション		ポスター発表
	日本語	英語	
青森県立青森高等学校(H26)	1	1	3
岩手県立盛岡第一高等学校(H27)	2	0	0
盛岡中央高等学校(アソシエイト)	1	1	0
宮城県仙台二華高等学校(H26)	3	4	3
仙台白百合学園高等学校(H27)	3	3	1
宮城県気仙沼高等学校(H28)	2	0	3
秋田県立秋田南高等学校(H27)	1	1	3
山形県立山形東高等学校(アソシエイト)	2	0	1
九里学園高等学校(アソシエイト)	1	0	2
計(発表数)	16	10	16
生徒参加人数130名			

(第一回2017.3.16の参加状況)